

学校関係者評価書

今回は、予定していた学校関係者評価委員会が新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置期間中であったため、児童、保護者アンケート結果及び学校評価結果を学校関係者評価委員の方々に送付し、紙上による開催とした。学校関係者評価委員から回答用紙に御記入いただき、御意見・御質問を集約する形で評価書とした。

1 学習面から

(学校関係者評価委員より)

- ・毎年、教育内容が変化している中で、それぞれに対処しながら授業等を進めている。
- ・コロナ禍の中、学習はオンライン化の方向へ、また、学校生活もいろいろと制限を受ける中で、子供たちはしっかりがんばっていると思う。アンケートの中で、%が少し低下している項目もあるが、今変わろうとしている学校生活をふまえ、大目にみてはどうか。
- ・新型コロナウイルスのまん延により、家庭での生活が多くなったものの本を読むことが少なくなったのはなぜか。ゲームやスマホを使う時間が多くなったからか。そのことにより、文字、漢字、計算を覚えることが少なくなっているのではないか。
- ・児童アンケートの中では、読書が気になっていたが、GIGA スクールもあるが本には本のよさがあると思うので、より一層親しめる工夫を考えてはどうか。
- ・家庭学習について、子どもが自主的に取り組むことはなかなか難しいと思う。宿題の出し方（量、内容）が、先生によって違うように感じている。学校として、学年に応じた宿題の出し方を標準化して示してもよいのではないか。
- ・新型コロナウイルスの影響により、家庭生活が多くなったにもかかわらず、家庭学習の習慣化の割合が減少したことは、児童アンケートの結果と同じ理由によるものか。図書館利用制限によるものか。
- ・R2、R3において、家庭学習をみてあげられなかった割合が2割近くあるのは、学習内容が難しくなっているのだろうか。家庭での親子の関係が良好であってほしい。
- ・主体的な学習を育むための授業改善は、永遠のテーマである。いろいろな考え方、方法があると思うが、山梨県の教員が基本的に行うべき方法なので、「やまなしスタンダード」に拠り所を置くことが一番と考える。コロナ禍における「やまなしスタンダード」改良改訂版のようなものは、国の施策も含めてあるのだろうか。GIGA スクール、オンライン授業、アフターコロナ、ウイズコロナ時代を見据えての共通な認識・方法を示す必要があるのではないか。

(今後に向けて)

- ・読書の肯定的評価が下がっていることをふまえ、朝読書や授業での読書、読書週間等を適切に活用するなど児童の読書意欲向上をより意識して指導する。
- ・宿題の出し方について、実情を確認し、南湖小としての宿題の原則を話し合い、決めていきたい。

2 生活面から

(学校関係者評価委員より)

- ・児童アンケートで、学校で困ったこと、嫌なことがあった時に「そのことを誰かに話せたか」に対する否定的な回答の8人に対しては、学校でのフォローをお願いできればよい。
- ・児童アンケートのアンケート項目で、学校での友達や先生とのかかわりについてわかるとよい。
- ・保護者アンケート「項目6」は、声の大小はあるが、よくあいさつできていると思う。夏休みのラジオ体操の時は、区の役員や大人の人たちと、しっかりあいさつができていた。あいさつは大切で、家庭、地域、学校の連携が必要である。特に、「家庭項目8, 18, 20」は、家庭の教え事が大だと思う。
- ・朝、子どもたちと登校していて一番あいさつしてくれるのは2年生です。学年によっても違うのかな、などと考えてしまう。
- ・地域で、子供たちが自転車に乗る時のヘルメット着用率が下がっている。

(今後に向けて)

- ・児童が、学校で困ったこと、嫌なことがあった時に、自分で解決できないことは学級担任（必要に応じて他の教職員）に伝えることを確認し、学級担任等が児童の困り感に寄り添って必要な支援を行う。
- ・児童の、友達とのかかわりについてはQ-Uアンケートで把握しているが、先生とのかかわりの様子を把握する項目を入れるかどうかについては、検討する。
- ・地域のラジオ体操でのあいさつは、大変ありがたい。「大人の人たちに」でなく「大人の人たちと」とあることから、大人と児童双方があいさつしている様子が伝わってくる。今後も、地域・家庭・学校で連携しながらあいさつの取組を行っていく。

3 安全・安心面から

(学校関係者評価委員より)

- ・コロナ禍の中、先生方には、子どもたちのために工夫して学校運営をしていただき感謝している。
- ・コロナ禍の中、熟考しながら指導してくれたことに感謝する。今まで以上に心配りし、仕事量が増して大変さがわかる。
- ・いよいよ子供たちへのコロナウイルス感染が心配になってきた。学校、先生方はさらに大変だと思うが諸機関及び家庭と「報・連・相・確」を「密」に取りながらがんばってほしい。
- ・学校行事は、コロナ禍の中ではあるが児童にとって大切なものである。市内でも対応が学校によって違うこともあるようなので、判断が難しいとは思いますが、感染対策をしてなるべく通常に近い形で実施できるように工夫、検討をいただきたい。
- ・事象により適切に対応されていて、子どもたちが安心して生活できるのではないかと。
- ・千葉県八街市で下校時に児童が死傷する悲しい事故があった。南湖小でも、常に行政に通学路の安全確保について要望を出しているが、特に保育園から旧甲西クリニックまでの間は早急に歩道ができるように働きかけていただきたい。

(今後に向けて)

- ・新型コロナウイルス感染症は、定期的に感染の波がくるので、油断せずに予防対策に努めていく。また、昨年度にインフルエンザが流行しなかったものの、今夏、RSウイルスの流行があったので、

コロナ禍では他の感染症は流行しないということではないと考え、インフルエンザ等他の感染症にも気を付けていく。

- 学校行事は、児童の社会性や心情を育成する上でとても大事なものなので、学校の実態をふまえ、必要な感染対策を行いながらできる限り行っていくが、地域の感染状況により実施方法を変更しなくてはならない場合もある。
- 千葉県八街市での事故を受け、通学路の再点検をする中で一部通学路の変更を実施した。南湖保育所から県道一軒茶屋荊沢線までの間の歩道設置は、通学路改善の市への要望で、毎年1番目に要望を出しているがなかなか実現が難しい。今後も粘り強く要望していく。

4 その他

(学校関係者評価委員より)

- GIGA スクールの導入や、新型コロナウイルスによる授業形態や時間的制限がある中で、研究・研鑽することによる児童の指導は大変だと思う。先生一人一人に負担がかからないように工夫して指導されていると思うが、心身の健康に留意してほしい。
- 小学校時代の思い出に残るのは修学旅行、林間学校であり、コロナ禍の中で貴重な体験ができたのは、学校、先生方のご苦勞のおかげではないかと思う。
- コロナ禍のため、児童の自己評価平均値が低くなったところはいたしかたないと思う。
- ホームページ「学校のひろば」があることを知らない人が多いので、アピールが必要ではないか。

(今後に向けて)

- コロナ禍への対応も含め、GIGA スクール構想実現に向けて Chromebook の活用が急ピッチで進んでいる。Chromebook を教えるのではなく、Chromebook で教えることができるように、Chromebook の管理面も含め、今後も組織的に研修を進めていく。
- 保護者が学校に来る機会が少ないため、保護者にはホームページで児童の様子を公開していることを伝えているが、地域の方々にも周知するかどうかは検討したい。